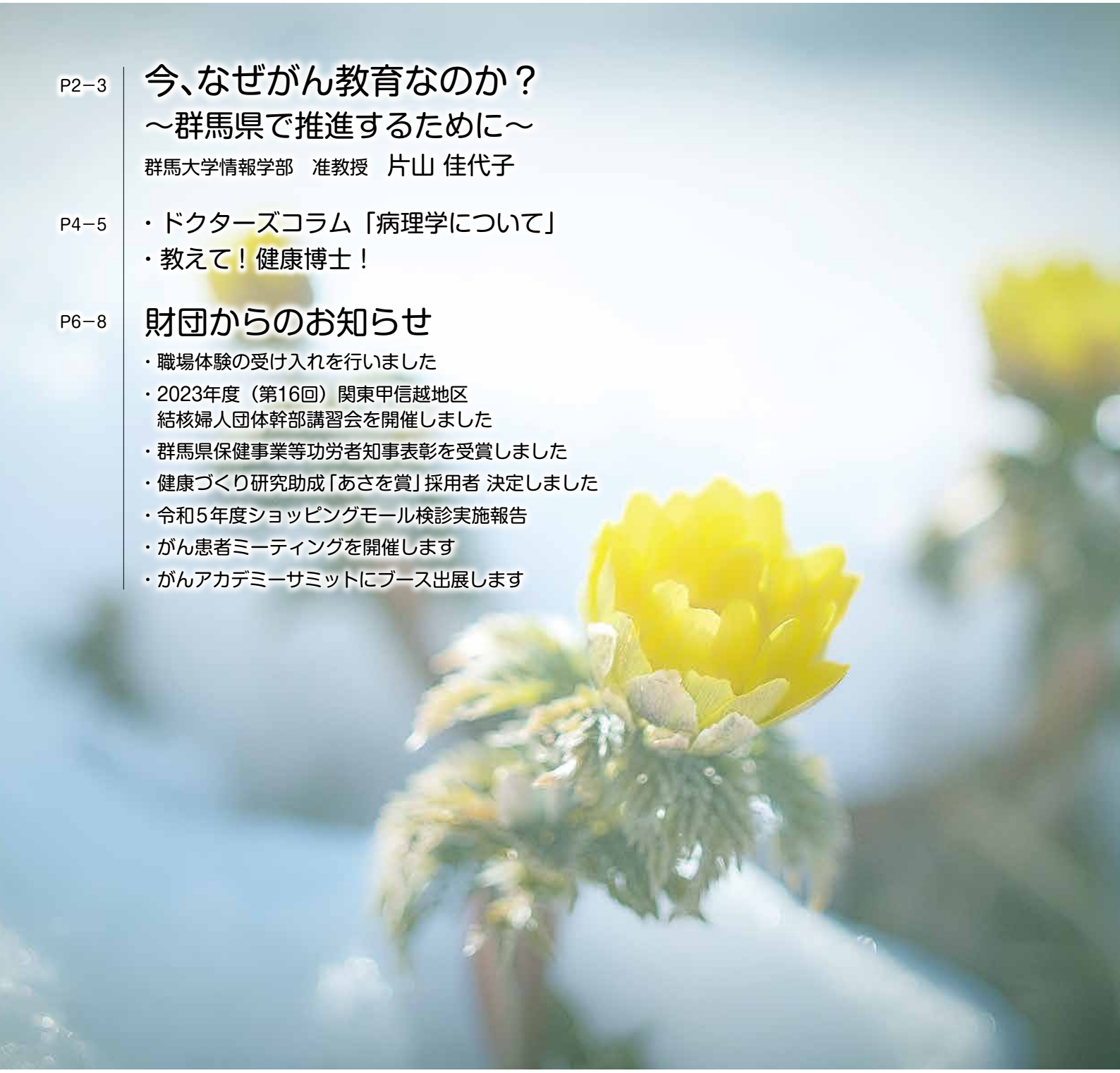
健やかぐんま

vol. 43
2024 Winter



P2−3 今、なぜがん教育なのか？
～群馬県で推進するために～
群馬大学情報学部　准教授　片山 佳代子

P4−5
・ドクターズコラム「病理学について」
・教えて！健康博士！

P6−8 財団からのお知らせ
・職場体験の受け入れを行いました
・2023年度（第16回）関東甲信越地区
結核婦人団体幹部講習会を開催しました
・群馬県保健事業等功労者知事表彰を受賞しました
・健康づくり研究助成「あさを賞」採用者 決定しました
・令和5年度ショッピングモール検診実施報告
・がん患者ミーティングを開催します
・がんアカデミーサミットにブース出展します

公益財団法人 群馬県健康づくり財団

今、なぜ がん教育なのか？
～群馬県で推進するために～

群馬大学情報学部　准教授　片山　佳代子

　がんは今や２人に１人が罹患すると言われている中、若年層からがんの正しい知識をつける「がん教育」に注目が集まっています。文部科学省は新学習指導要領に「がん教育」を明記し、中学校は、2021年度全面実施、高等学校は2022年度入学生より年次進行で実施しています。
　がん教育とは何か、群馬県のがん教育発展に欠かせない要素は何か、群馬大学の片山佳代子先生にお伺いしました。

日本でがん教育が必要な理由

　がん教育は、2012年６月に閣議決定された「第２期がん対策推進基本計画」（以下、第２期計画）にがんの教育・普及啓発として盛り込まれて以来、我が国のがん対策上重要な基盤施策として第４期がん対策推進基本計画にも位置づけられた。また文部科学省では、『生涯のうち国民の二人に一人が罹ると推測されるがんは重要な課題であり、健康に関する国民の基礎的教養として身に付けておくべきものとなりつつある。』と学校でのがん教育の在り方について明文化している。つまり、がん教育は、がん患者やその家族だけの問題ではなく、健常者である一般市民を巻き込みながら「がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識をもつよう教育すること」を重要視しており、今後益々高齢化に向かう日本においてがん患者は増加する一方であることを鑑みると、がんとの共生は避けては通れず、それに伴う教育は子どもから大人まで必要不可欠であることを示している。

がん教育外部講師の育成

　がん教育の目的は２つある。１つ目は、がんについて正しく理解することができるようにする、である。がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心をもち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成することである。筆者は、第２期計画にがん教育・普及啓発が盛り込まれた際にスタートした厚労科研のがん教育研究班で分担を務め、以来2013年に発足した神奈川県がん教育検討会委員就任に始まり、現在は神奈川県がん教育協議会座長に至るまで約12年以上にわたりがん教育に継続的に関わってきた。私の専門は疫学であるが、医療の現場では、命の危機に瀕するケースに対応する治療そのものが主な仕事となり、いわゆる命の危機に瀕する以前に何をすべきだったのか、ということは扱わない。喫煙や肥満がなぜ身体に悪いのか、どうしたら喫煙本数を減らすことができるのか、やめることはできるのか、など疾患に侵される前にできることがある、という視点は医学教育の中でも予防医学や疫学、公衆衛生学分野ならではの発想であり、がん教育の目的を考えると疫学との親和性が高いことがお分かりいただけるだろう。
　２つ目の目的は、健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする、である。外部講師としてがん経験者らが担うパートであるが、命や生と死についての個人的な体験を人前で語ることは決して容易なことではない。しかし、私が知る限り経験者らの授業は、言葉だけではなく語る姿全身で児童生徒の心にダイレクトにメッセージを届け、教科書では教えられない事を伝授している、と感じている。こうした活動を支えるため、神奈川県では患者団体が中心となり経験豊かな経験者から、講師として学校に出向き語る際の留意点を学び、自身のがん体験を語るための準備やノウハウを習得し、準備を進めている。単なる体験談を話すだけでは教育にならないため学校側のがん教育のねらいを把握し教壇に立つということに畏敬の念を持つことを忘れないよう研修会を繰り返している。
　一方、医療者外部講師については診療の妨げにならないような配慮も必要であり、学校現場と調整を取ることも必須条件であるが、若手の医師が診療よりもがん教育を優先することは難しく、医療現場ではいかに医師たちの協力体制や上席の理解が必須であるかも重要なファクターとなる。

群馬県沼田市立薄根小学校（5.6年生）でのがん教育（2023年11月12日）

知っていることと教えることの違い

　医療者外部講師の確保については、がん診療連携拠点病院、学校医の活用など各所との連携協力が不可欠である。また、たとえ外部講師をリスト化できたとしても、それだけでがん教育外部講師の役割が果たせるか否かは別問題である。外部講師を活用する場合は、①講師の専門性を生かした授業ができるか、②学校教育活動全体で健康教育の一環として行うこと、③発達段階を踏まえた内容・指導になっているか、を確認することが望まれている。つまり医療者だからといっても「知っていることと教えること」が異なるように、「講演ではなく、授業を行う」という視点が必要不可欠である。そのため、神奈川県では医療者に向けた外部講師育成セミナーを一昨年から開始している。いくつかの思考錯誤を繰り返した末、医療者向けに専門家によるセミナーを受講してもらい（これが必須条件）、がん教育９つのコンテンツのどこを（何を）担当できるのか、整理しコンテンツ毎に医療者のリスト化を進めている。

これからのがん教育

　がん教育モデル授業の現場では「がん患者さんが教室に来るだけで学びである」という教員の声があった。リアルながん経験者が目の前にやってくることだけでも強烈な印象を残すという。がん教育はスタートラインに立ったばかりで、現場の教員側からはモデル授業のようにやれるだろうか、という不安の声も大きい。しかし「がん」を語ることを恐れず正しい知識を持って教えれば「人と人は支え合い、病と寄り添って生きることができる」ということを患者でなくとも伝えられるはずである。そしてがん教育にはそれを実践する地域で、子どもの成長を熱心に考えている人々との協働が必要不可欠である。幸いなことに群馬県には行政や健康づくり財団の理解をはじめ、若いがん患者さんたちが共同で動き始めている（NPO法人つながるん場）。付け加えるなら、がんそのものや、がん患者に対する理解を深めるための教育であっても、基本は「児童生徒の成長のための教育である」という原点に関係者達がその都度立ち返る必要がある。群馬県においてもがん教育がより身近な学習として発展することを願っている。

片山（かたやま） 佳代子（かよこ） プロフィール

2021年４月より新情報学部開学と同時に群馬大学 情報学部 准教授に着任
2022年２月より学長特別補佐（ビッグデータ活用担当）
博士（医学）、日本がん登録協議会理事、日本癌治療学会代議員、日本公衆衛生学会代議員
兼）神奈川県立がんセンター臨床研究所がん教育ユニット・ユニット長　兼）国立がん研究センターがん対策研究所データサイエンス研究部外来研究員
がんの疫学研究を中心にがん登録の利活用に関する研究やがん情報の効果的な発信、サバイバーシップに関する研究に従事している。

vol.9

ドクターズコラム

当財団の医師によるコラム

病理学について

群馬県健康づくり財団検査部病理検査課　医療顧問　杉原　志朗

病理学は医学の１分野で、基礎医学というより臨床医学といったほうがいいかもしれません。医学部では３年生から講義や実習があります。病理学はABCという分野があり、AはAutopsyすなわち剖検〔病理解剖〕で、BはBiopsyすなわち生検で、CはCytologyすなわち細胞診の事です。病理は臨床医学と深い連携が必要となります。例えば外科の手術時に乳がんや胃がんが腫瘍の残存無いことを確認する迅速病理診断を行い、手術室にいる外科医に即時に回答を出します。その診断で外科医は手術の方針を決めて、手術を継続します。

日本では病理医や病理学という言葉はまだ一般的ではありません。大学４年生の時に夏休みを利用してハワイのホノルルにあるQueen's Medical centerの病理教室に２か月ほどお世話になりました。その時初めての海外だったので、大阪府庁にパスポートを取りに行った時、係りの人から目的は何ですかと聞かれました。病理学の勉強に行きますと答えたら、係りの人は料理学ですか？と聞かれ「なんか似たようなものです」と答えておきました。病理学の認識は一般の人には認識がないようです。いまもその頃の認識と同様であると思います。

その病院の病理専門医でハワイ大学の教授であった並木秀男先生に指導を受けました。彼は群馬県の下仁田の出身で、面白い人でした。月曜日から金曜日まで、病理学の勉強をし、病理解剖があると見学や手伝いをしていました。彼は金曜日の夜になると並木邸に誘ってくれました。並木先生は大酒のみで、料理好きで、彼の作った料理でご馳走になりました。バーボンウイスキーをグイグイ飲んでいたようでした。一般に病理は酒飲みと変人が多いという人がいますが、並木先生を考えるとそんなイメージが浮かび上がります。私が病理医になった要因の一つです。

大学卒業後は群馬大学の大学院に入りました。石田陽一先生に師事し、脳腫瘍の診断等の分野等で指導を受けました。なんとか病理学会認定病理医になりました。特に中里洋一先生（群馬大学第１病理名誉教授）は我々大学院の指導係でした。彼は緻密な性格で、様々な病理的手技をプリントにして渡してくれました。例えば、病理解剖の仕方や染色の仕方や電子顕微鏡の資料の作成法などがあります。そのプリントは病院の技師に渡し、彼らは今でも使用している様です。また、群馬県立がんセンターで様々な病理診断をし、臨床細胞学会の細胞診断指導医になり、群馬県健康づくり財団で、子宮頸がんや肺がん検診に役立っていると思います。

私は2004年の４月に健康づくり財団へ入職しました。日々多数の生検例や手術例の診断をし、細胞診の診断も重要となりました。日本病理学会や日本臨床細胞学会では様々な委員に属し、学会活動も行ってきました。平成24年には第26回日本臨床細胞学会関東連合会学術集会を主催できました。

病理学について述べようと思いましたが、私が病理医になった経緯の様な記載になってしまいました。病理学が皆様方によく知られるようになれば幸いです。

検査課で行っている検査項目について解説するコーナーです。

教えて！健康博士！

健康博士：
なんでも知ってる物知りな博士

健（たけし）くん：
好奇心旺盛でやんちゃな小学6年生

康子（やすこ）ちゃん：
真面目でしっかり者の小学6年生

わー！箱の中のみかんにカビが生えてる！気持ち悪い！

うわ！ほんとだ！捨てちゃった方がいいよ！カビは病気の原因にもなるって聞いたことがあるよ。博士！そうだよね？

確かに、我々の健康に害を与えるカビがいることは事実じゃ。
カビの胞子を吸い込んでしまうと、アレルギー症状が出たり、肺炎になってしまう可能性もあるのじゃぞ。
最近ニュースにもなっていたが、小麦に付着する赤カビは、デオキシニバレノールというカビ毒を作るのじゃ。
他にも、アフラトキシンという発がん性のあるカビ毒を作るカビもあるぞ。

カビって気持ち悪いだけじゃなくて、病気にもなるんだ。こわいね。じゃあ、みかんにカビが生えないようにするにはどうしたらいいの？

みかんは涼しくて通気性の良い場所に保管しておくとカビが生えにくくなるぞ。
じゃがな、カビは悪いだけじゃないんだ。
みかんに生えるカビは「アオカビ」という種類がほとんどで、実はこのカビの仲間から、病気を治すのに役立つ「ペニシリン」が発見され、活用されているんだ。

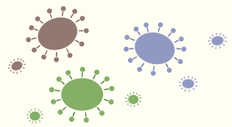
え？そうなの？カビで病気が治せるんだ！私たちの生活に役立ってるってことだね！

そうじゃ。人に害を与えるカビもあるが、我々の生活に有用なカビもたくさんあるんじゃよ。
例えば、味噌、しょう油、かつお節など、「コウジカビ」を利用して作られている食品がたくさんあるのじゃ。パンを発酵するのに使われる「酵母」もカビの仲間だぞ。
食べ物以外でも、森林の落ち葉を分解したり、環境浄化に関係するカビもあるんじゃ。

そうなんだ！カビってすごいんだね！なんかカビについてもっと調べてみたくなっちゃった！

好奇心旺盛でよろしい！カビはまだまだ奥深いぞ。
じゃが、たけし君。そのみかんは食べない方がいいぞ。
みかんのアオカビには毒性がないものが多いが、目で見て有害なカビかどうかは判断できないからのぉ。

はーい！
カビの生えたものなんか食べないよ！



群馬県健康づくり財団では、調理場・工場などの「落下菌検査」や、食品中の「カビ数検査」なども行っております。
「落下菌検査」は食品事業所の衛生管理に非常に役立ちます。
ご不明点、ご相談等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。

財団からのお知らせ

職場体験の受け入れを行いました

財団では、地域貢献事業の一環として中学生の職場体験を受け入れています。今年度も、前橋市立芳賀中学校・大胡中学校の２校の中学生が当財団を訪れ、診療所での受診者呼び込み体験や、病理検査細胞診の染色体験、お互いに健康診断項目を測定する疑似健診体験等を行いました。

医療の現場に興味を持ち訪問してくれた生徒が多く、積極的に仕事に取り組んでいました。群馬県健康づくり財団での体験が、将来の職業を考える際の一助になってくれれば嬉しく思います。

2023年度（第16回）関東甲信越地区結核婦人団体幹部講習会を開催しました

公益財団法人結核予防会、全国女性団体連絡協議会と共催で2023年度（第16回）関東甲信越地区結核婦人団体幹部講習会を開催しました。

会場は、メトロポリタン高崎で約60名（うち婦人会員57名）の方が参加しました。

講習会では結核の専門家を３名講師で招き、結核募金と国際協力についてや、複十字シール活動、BCGワクチン接種について学びました。

半日の開催となりましたが、講師に対しての質問なども多く上げられ、活発な講習会となりました。

群馬県保健事業等功労者知事表彰を受賞しました

群馬県保健事業等功労者知事表彰は、群馬県内で保健事業等に永年にわたり尽力し、その功績が顕著であった個人、団体及び市町村に贈られるものです。令和５年度の表彰にて、当財団が推薦した早川尚代氏（笑みの会代表）の受賞が決定しました。早川氏は平成10年に乳がん患者会である「笑みの会」を立ち上げ、がん患者団体連絡協議会の役員やRFLJぐんまの副実行委員長を務め、財団のがん征圧運動に長年に渡りご尽力いただきました。

表彰式は、11月24日に群馬県庁昭和庁舎正庁の間で執り行われ、県内の保健事業に貢献した25人、８団体が表彰されました。

健康づくり研究助成「あさを賞」採用者　決定しました

県民の健康増進又は疾病予防等健康づくりに役立つ調査研究に対して助成を行う健康づくり研究助成「あさを賞」の選考委員会が令和５年12月18日（月）に開催されました。

審査の結果、下記の６課題が採用されました。

この研究の結果は、今後当財団ホームページ等で公開する予定です。

令和５年度選考委員会の様子

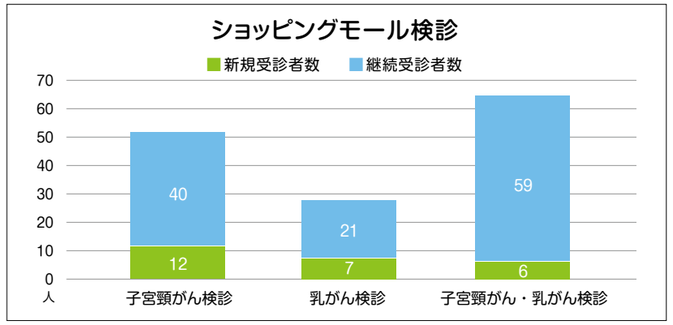
No.	氏　名（所属）	研　究　課　題
1	井田　伸人 （高崎健康福祉大学）	精神科に勤務する看護職のレジリエンスとトラウマティック・ストレスに関する研究
2	解良　武士 （高崎健康福祉大学）	高齢者と若者が協働してフレイルを学ぶ、新しいフレイル予防活動の開発と効果検証 ― ITを活用した世代間交流とフレイル予防地域診断の応用 ―
3	悴田　敦子 （群馬医療福祉大学）	新たなパンデミックを想定した高齢者サロンへの提言 ～社会福祉協議会との共同調査～
4	柴　ひとみ （群馬医療福祉大学）	高齢者における体幹のストレッチ体操による肩関節の可動性について
5	五十嵐達也 （沼田脳神経外科循環器科病院）	亜急性期脳卒中患者における歩行動作の特徴から抽出する転倒予測因子の解明
6	小淵　和通 （群馬県健康福祉部食品安全検査センター）	新規誘導体化反応を用いた食品中の除草剤（グリホサート、グルホシネート）及び代謝物の一斉分析法の開発

（敬称略、順不同）

令和５年度ショッピングモール検診実施報告

婦人科検診の受診率向上を目指し、群馬県は県内の９市町村と連携してがん検診受診促進キャンペーンを県内大型ショッピングモールで実施しました。同財団も共同でキャンペーン活動を行い、検診の実施およびがん検診に関するチラシの配布等を、群馬を拠点に活動しているローカルヒーローのG-FIVEと一緒に実施しました。検診は、12月８日(金)に子宮頸がん検診、乳がん検診、子宮頸がん検診と乳がん検診の同時検診の３項目で実施し、子宮頸がん検診を52名の方、乳がん検診を28名の方、子宮頸がん・乳がんの同時検診を65名の方が受診しました。そのうち、初めて受診した方の数は、子宮頸がん検診で12名、乳がん検診で７名、子宮・乳がんの同時検診で６名となり、多くの方に受診していただける、よい機会となりました。

今後も、財団はがん検診の重要性を県民に伝える活動を継続して行っていきます。



がん患者ミーティングを開催します

がん患者・家族・支援者がともに集い、勇気や元気を分かち合うことを目的に開催している「がん患者ミーティング」を、今年も下記のとおり開催します。申込みは不要、入場料は無料です。お子さんも楽しめるようなイベントを企画していますので、どなたでも参加ください。

●日時：2024年２月10日（土）
13:30～15:30（開場13:00）
●場所：けやきウォーク前橋２階
けやきホール
（前橋市文京町２丁目１－１）
●内容：第１部
日本対がん協会　阿蘇敏之氏　講演
「20代、40代での２度のがん体験」
阿蘇敏之氏
20代で精巣腫瘍、40代で後腹膜胚細胞腫瘍を経験。現在日本対がん協会勤務で、がん教育の講演等も行っている。
第２部　交流ワークショップ
「缶バッジ・ルミナリエ・折花」

問合せ先：027-269-7820
（健康づくり財団　企画広報課）

がんアカデミーサミットにブース出展します

NPO法人群馬がんアカデミーが開催する「がんアカデミーサミット」に財団がブース出展します。同イベントは、「ほんとうに大切なものは目に見えない」をテーマに、がん治療に関する講演から音楽や芸術、アピアランスケアまで多岐にわたる多彩なプログラムで構成されています。群馬県健康づくり財団はがん検診の啓発やRFLJの紹介を行う予定です。ぜひ、お出かけください。

●日時：2024年３月９日（土）10：30～17：00　●場所：群馬会館　１階大広間・２階ホール

編集後記

新しい年がはじまりました。辰年の今年は、「成功の芽が成長していき、姿を整えていく」という意味がある縁起の良い年で、新しいことに挑戦するのが吉だそうです。私はこれまで怖くて一歩踏み出せずにいた事があるので、今年こそは挑戦してみようと思います。みなさんも今年から新しいことにチャレンジしてみてはいかがでしょうか。（H）

健やかぐんま
vol.43　2024　Winter

編　集●公益財団法人群馬県健康づくり財団　総務部　企画広報課
発　行●公益財団法人群馬県健康づくり財団　理事長　須藤 英仁
〒371-0005 群馬県前橋市堀之下町16－1
TEL.027-269-7811　FAX.027-269-8928
印　刷●上毎印刷工業株式会社